



TITLE:

動物が介在する教育空間に関する  
研究－小学校における動物と児童  
の関わり場について－(  
Abstract\_要旨)

AUTHOR(S):

亀井, 暁子

---

CITATION:

亀井, 暁子. 動物が介在する教育空間に関する研究－小学校における動物と児童の関わり場について－. 京都大学, 2019, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2019-07-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k22012>

RIGHT:

許諾条件により本文は2020-07-01に公開

|  |   |    |      |
|--|---|----|------|
| 京都大学   | 博士（建 築 学）                                     | 氏名 | 亀井暁子 |
| 論文題目   | 動物が介在する教育空間に関する研究<br>-小学校における動物と児童の関わりの場について- |    |      |
| <p>（論文内容の要旨）</p> <p>本論文は、動物の介在する教育空間の考察を通して、現在、課題とされる教育空間の多様化、個々の児童の居場所、および彼ら相互の関係性の構築の問題に光を当てつつ、よりよき教育空間のあり方に一石を投じるものである。全体は6章からなっている。</p> <p>第1章は序論であり、先史時代の洞窟壁画などに観られる生命と再生の象徴としての動物、いわば世界の代理表象としての動物、世界認識の手段としての動物という観点から、今日においてもなお人間、とりわけ児童が、どのように生き、そして他者と関わるかを示唆する存在としての動物に注目する意味、ひいては動物と関わる教育空間の意義から説き起こされる。</p> <p>人と動物の関係がもたらす効果を科学的に評価し活用しようとする試みは、すでに医療分野でのアニマルセラピー、乗馬療法、高齢者の痴呆治療などに見られる。また制度的観点からも、学習指導要領においては理科、道徳、生活科で動物との関わりが扱われ、教育基本法においても生命尊重が説かれている。にもかかわらず、家庭での動物飼育率の低下（住宅事情やアレルギーによる）が進み、兄弟姉妹減少、核家族化による他者への想像力の欠如、などによる親密な人間関係形成への困難も指摘されており、教育空間における動物の介在は、情操の育成と豊かな人格形成の契機ともなりえよう。</p> <p>小学校における動物を活用した教育は、自然観察から生命の尊厳まで、その目的は広い。多くの学校でみられる屋外飼育舎という動物飼育環境は、自然観察に重点がおかれていた明治期以来踏襲されている形式である。ただ今日では運用上の課題も多く、近年特に重視される生命尊厳の教育に関しては、より適した環境が模索されるべき状況にある。また教育現場では、近年、児童の多様性に対応した教育空間のニーズが多く出ている。本研究は、教育空間における児童と動物の関わりの場の実態調査、並びにその可能性を模索する実験を通じて、児童と動物の関わりの場の特性を明らかにし、それらが教育空間にもたらす多様性の意義を考察するものである。それはそのまま、現代の教育現場が抱える課題に応答し、また今後の教育空間の新たな展開のための一つの道筋を拓く研究であると考え</p> <p>る。</p> <p>序論に続く本論の構成は3本建てとなっている。まず第2章、第3章で動物の介在する教育空間の歴史的・空間的考察が行われる。第2章は人類と動物の関わりについての歴史的考察であり、第3章は日本における動物と教育の空間史についての概観であって、小学校における動物との関わりについての空間的考察がなされる。次に第4章、第5章で現代の教育現場における動物飼育環境の分析と考察が行われる。第4章は今日の小学校における実践事例の調査分析であり、動物の介在する教育活動の類型化と考察がなされ、第5章は既存空間における飼育場所や飼育方式にヴァリエーションの導入、とりわけ可搬式飼育空間の導入を通しての実験と考察がなされる。最後に第6章で将来的展望を視野に入れつつ、動物と児童の関係、あるいは児童相互の関係を誘発するための独自の空間装置が持ち込まれ、制作導入実験に基づく考察がなされる。そこでは動物の介在する教育空間における児童と</p> |   |    |      |

|   |           |    |      |
|---|-----------|----|------|
| 京都大学  | 博士（建 築 学） | 氏名 | 亀井暁子 |
| <p>動物、あるいは児童と児童との多様な関わりが生き生きと展開、記述されてゆく。具体的には、半ば開かれた「場の空間」、半ば閉ざされた「器の空間」の二種の空間装置を用いて、動物と児童、児童と児童の行為の新たな関係が生み出される現場に立ち会い、動物の介在する教育空間の可能性が示される。</p> <p>第7章は結論であり、本論で得られた成果について要約している。</p> |           |    |      |

|  |           |    |      |
|--|-----------|----|------|
| 京都大学   | 博士（建 築 学） | 氏名 | 亀井暁子 |
| <p>（論文審査の結果の要旨）</p> <p>本論文は、ともすれば画一化され、工業生産的な均質教育に陥りがちな教育空間に多様な相をもたらす試みの一手段としての動物との関わりに焦点を当てるものである。動物はそれ自体が思うようにならぬ生物であり、人間にとっての他者でもあり、自然の、そして世界の代理表象でもあって、古来人間は動物との関わりを通して世界を認識し、生と死を理解しようとしてきた。人間はそうした動物を飼育し、様々な形で関わることを通して、他者への思いやりや、人間相互の存在への尊重などを学んできたのであって、今日においても、動物の介在する教育空間の意味は決して小さいものではない。そうした認識に立ち、実際に小学校の現場を調査分析し、最終的に可搬式の動物飼育空間の可能性に焦点を絞って、あらたな教育空間の可能性を論じる本論文の試みには大いに意義があるといえよう。</p> <p>とりわけ、教師、そして児童の視点を通して問題点を抽出し、そこから具体的な空間装置を案出して実験を行なっていることは、建築設計者として教育空間の計画に携わってきた申請者独自の達成であり功績と言える。得られた主な成果は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類と動物の関わりを踏まえつつ、とりわけ明治以降の動物の介在する教育空間の歴史的空間的把握と概括。</li> <li>2. 現代の教育現場における動物飼育環境の課題の把握と概括、および可搬式飼育空間の導入による児童の行為と関係性の観察と分析。</li> <li>3. 児童の動物との関わり場の場を求める空間イメージ分析に基づく空間装置の開発と、その導入を通しての児童の行為と関係性の観察と分析。</li> </ol> <p>とりわけ3.の空間装置については独自にデザインされたものであるため、詳述する。考案された空間装置は大きく二種に分かれる。＜境界を形成する空間装置＞と＜領域を構成する空間装置＞である。前者はさらに二つに分かれ、ひとつは「関わりを誘発する境界」と名付けられ、いまひとつは「関わりに階層をもたらす境界」と名付けられる。同一寸法の正方形の板材の組み合わせによる空間と、円形線材の重なりによる空間である。後者もまた二つに分かれ、ひとつは「場の空間」、いまひとつは「器の空間」と名付けられる。同じ紙管を構成材に用いているが「場の空間」は解放度が高く、「器の空間」は閉鎖度が高い。</p> <p>調査委員からは、こうした空間装置によって誘発される行為が当初の想定を超えるものであることが、教育空間のあり方に新たな方向性を示すものであるというポジティブな評価と同時に、より精緻な行為の分析が望まれるという指摘があった。また、「場の空間」と「器の空間」の開放性と閉鎖性の間にあるはずの、開放と閉鎖のグラデーションの実験の可能性も指摘された。児童や教育の視点のみならず、動物の側からの居場所の要求についても、獣医師などとの連携を取りつつ、さらなる空間装置のデザインを深める可能性が指摘され、最終的には動物の生と死をも教育空間のなかで受け止めて生命の尊重を学ぶことの重要性も指摘された。しかしながら、そうした議論を生み出す独自の試みであることは疑いなく、教育空間の可能性に対して新たな視座を提示した優れた論文であるという点で、調査委員の意見は一致した。</p> <p>したがって本論文は、教育空間の多様化に向け、動物という特殊な存在の媒介により児童相互の関</p> |           |    |      |

|   |           |    |      |
|---|-----------|----|------|
| 京都大学  | 博士（建 築 学） | 氏名 | 亀井暁子 |
| <p>係がより多層的で豊かなものとなりうる可能性を、具体的、工学的、建築的、空間的に示すものであって、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、令和元年6月25日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。</p> |           |    |      |

